

泉州南消防組合 常備消防力適正配置計画

SENSHUMINAMI BROAD FIRE DEPARTMENT



安全で安心して暮らせる

泉州南

目 次

1 はじめに	2
2 策定に関する理念について	3
3 課題と対応	4
課題 1～課題 5	
4 対応スケジュール	
前期（令和 5 年度）	4
後期（令和 6 年度から令和 10 年度）	5

参考資料

1 はじめに

東日本大震災では、経験したことのない未曾有の大惨事となり、今後、高い確率で発生が予測されている南海トラフ巨大地震をはじめ台風や局地的集中豪雨など、災害に対する消防機関の役割は、ますます重要なものとなっています。

大量退職期により「消防技術」の低下を招かぬように技術の伝承が求められる中、これまでに経験した災害を教訓にして、次世代を担う「隊員の育成」及び「消防の高度化」が消防行政上の重要な課題と認識しています。

また、超高齢化社会を迎え、生産年齢人口が減少し、構成市町からの負担金を主な財源とする消防組合としても、効率的で効果的な行財政運営を進める必要があります。

本計画は、令和元年に定めた「泉州南消防組合 第1次将来構想計画」にある消防力の充実・強化を実行するため、消防広域化によるメリットを最大限に發揮し、住民の生命、身体及び財産をあらゆる災害から守るために、効率化できるものは効率化したうえで、各事業に応じた人員を配置し、事業の進捗状況により適宜、見直すものとし、効率的で効果的な消防行政の運営を目的に策定するものです。

2 策定に関する理念について

「安全で安心して暮らせる泉州南」を実現するため、新たな体制を構築し同時に人材の育成が重要と考えています。

新型コロナウィルス感染症の様な疾病構造の変化等により、救急隊員の活動領域は広がり、より専門的となっていることから、住民へ質の高い病院前救護活動を提供できるよう、あらたな救急体制を構築します。

また、住民の生命、身体、財産をあらゆる災害から守るために、まず、消防隊員の安全を保持することが重要となります。建築物の高層化や新建材の普及により、消火活動中に予測を上回る延焼拡大により退路を失い殉職する等、重大な事故が後を絶たないことから、更なる安全管理体制を構築します。

平成25年4月1日に発足した泉州南消防組合は、今年で9年目を迎え、平成30年台風第21号を経験し、また、消防体制強化の必要性や新型感染症への対応など様々な問題に対し、泉州南消防組合職員が一丸となり、対応してきました。

令和4年度には、10年の節目の年を迎えるにあたり、さらに成熟した消防組合となるよう、新たな組織を構築し、住民に安心・安全を提供し、信頼される「泉州南消防組合」を目指すことを理念とし、本計画を策定したものです。

3 課題と対応

- | | |
|----------------|---|
| 課題1 救助体制の再構築 | → 救助需要に応じた配置
(資料ページ2) |
| 課題2 救急体制の充実・強化 | → 救急課の新設
本部救急隊の運用 (R4年度実施)
(資料ページ4) |
| 課題3 指揮活動の充実・強化 | → 南北に2隊の指揮隊を新設
(資料ページ5) |
| 課題4 安全管理の充実・強化 | → 指揮隊が安全管理を行う
(資料ページ8) |
| 課題5 消防体制の充実・強化 | → 特別消火隊の運用
(資料ページ10) |

4 対応スケジュール

「泉州南消防組合 第1次将来構想計画」において、基本構想である『安全で安心し暮らせる泉州南』の達成のための期間を令和元年度から令和10年度までの10年間と定めていることから、3 課題と対応を段階的に解決するための対応スケジュールとして、前期、後期に分け、第1次将来構想計画に定める基本計画（公共施設等総合管理計画、個別施設計画、車両更新計画等）と整合性を図りつつ、消防需要の変動に則した署所配置の適正化とそれに見合った減車、減隊及び人員削減を含めた弾力的な配置の見直しを継続的に検討していきます。

前期（令和5年度） 配置人員（360人）

・救助隊の運用見直し

専任救助隊2隊（高度救助隊・特別救助隊）とし、救助隊の配置がない署のタンク車に救助資器材を積載する。

・救急課の新設

警備課救急係から新たに救急課を新設し、高度化する救急業務への対応を行う。

- ・指揮隊の新設

指揮隊を南北に2隊配置し、指揮活動と安全管理を行う。

- ・特別消火隊として泉南署ポンプ車を指定

特別消火隊を新設し、全15隊の消火隊の基幹隊と位置付ける。

- ・署の再編成

阪南消防署を（仮称）尾崎分署、南西分署を（仮称）阪南署に変更する。

後期（令和6年度から令和10年度）

第1次将来構想計画の見直しと歩調を合わせ、人口推移・消防需要に応じ、減隊等、計画を見直す。

また、個別施設計画と整合性を図り、署所の建て替えを含めた指令システムの更新等を検討する時期とする。

計画ロードマップ



本計画は、第1次将来構想計画の期間と同じく令和10年とするものの、毎年、計画を見直すものとし、また、特に救急件数は、令和12年（2030年）をピークに減少に転じる傾向が示されていることから、これらを含め、隊の減隊等は、人口推移・消防需要に応じ、適宜、計画を見直す。

參 考 資 料

広域化の効果

(普通建物火災の第1出動体制)

広域化前

泉佐野市消防本部 消火隊3隊・救助隊1隊
泉南市消防本部 消火隊3隊・救助隊1隊
熊取町消防本部 消火隊2隊・救助隊1隊
阪南岬消防組合 消火隊2隊・救助隊1隊

広域化後

消火隊	救助隊	指揮支援隊
4隊	2隊	1隊

広域化により火災出動時、2隊から3隊の消火隊と救助隊1隊で活動していたものが、消火隊4隊、救助隊2隊の体制となり、初動体制の強化につながった。

(普通建物火災の追加出動体制)

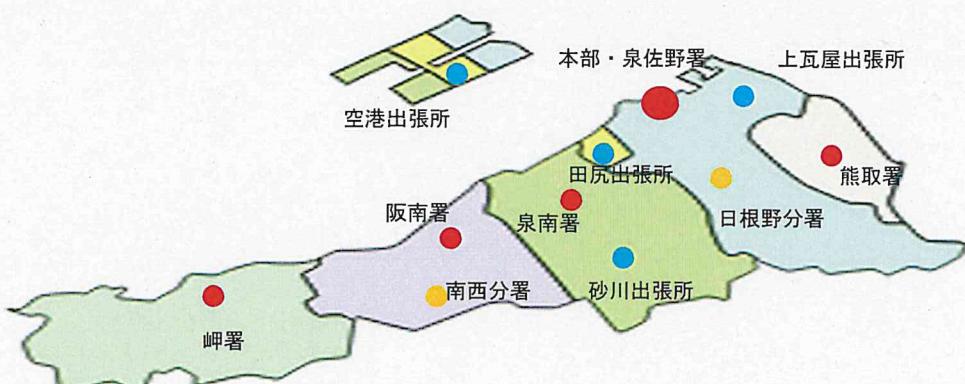
広域化前

泉佐野市消防本部 消火隊1隊
泉南市消防本部 なし
熊取町消防本部 なし
阪南岬消防組合 なし

広域化後

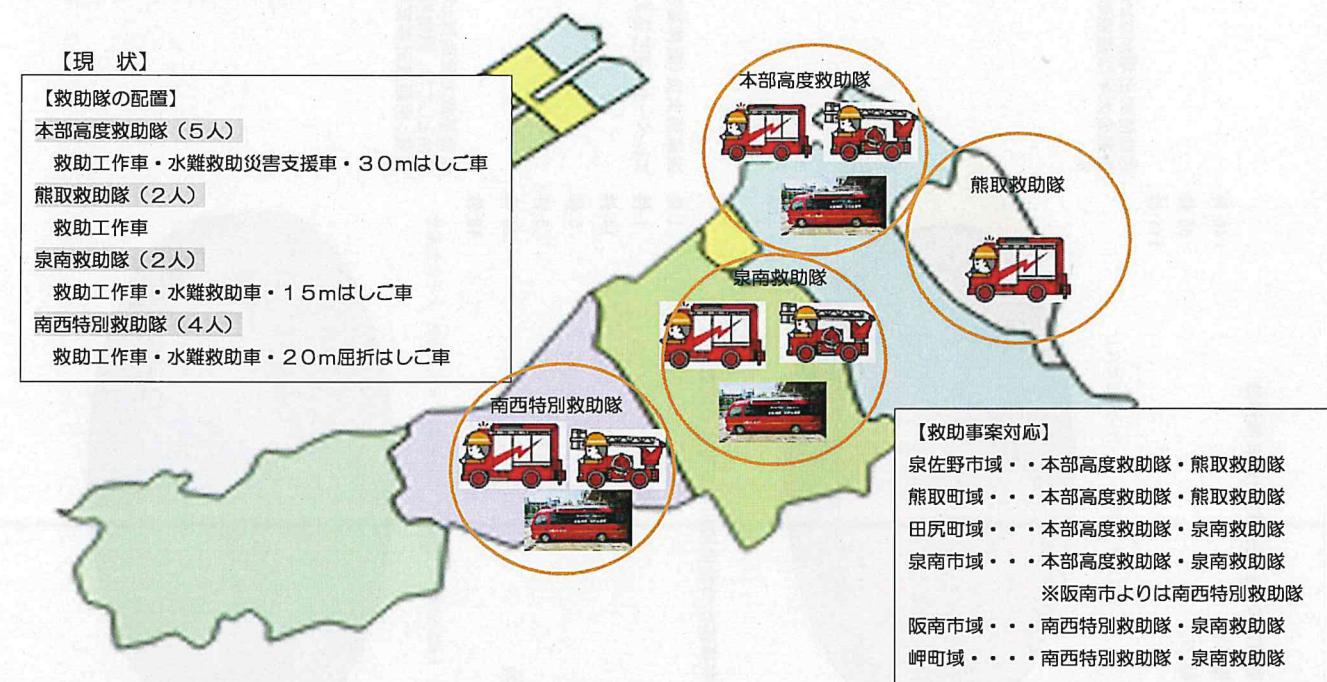
消火隊	救助隊
11隊	2隊

広域化前は、消防隊、救助隊の増隊が必要となった場合、隣接消防本部に応援要請を行っていたが、広域化により、最大、消火隊11隊と救助隊2隊を現場最高責任者の判断により、即時、増隊が可能となった。

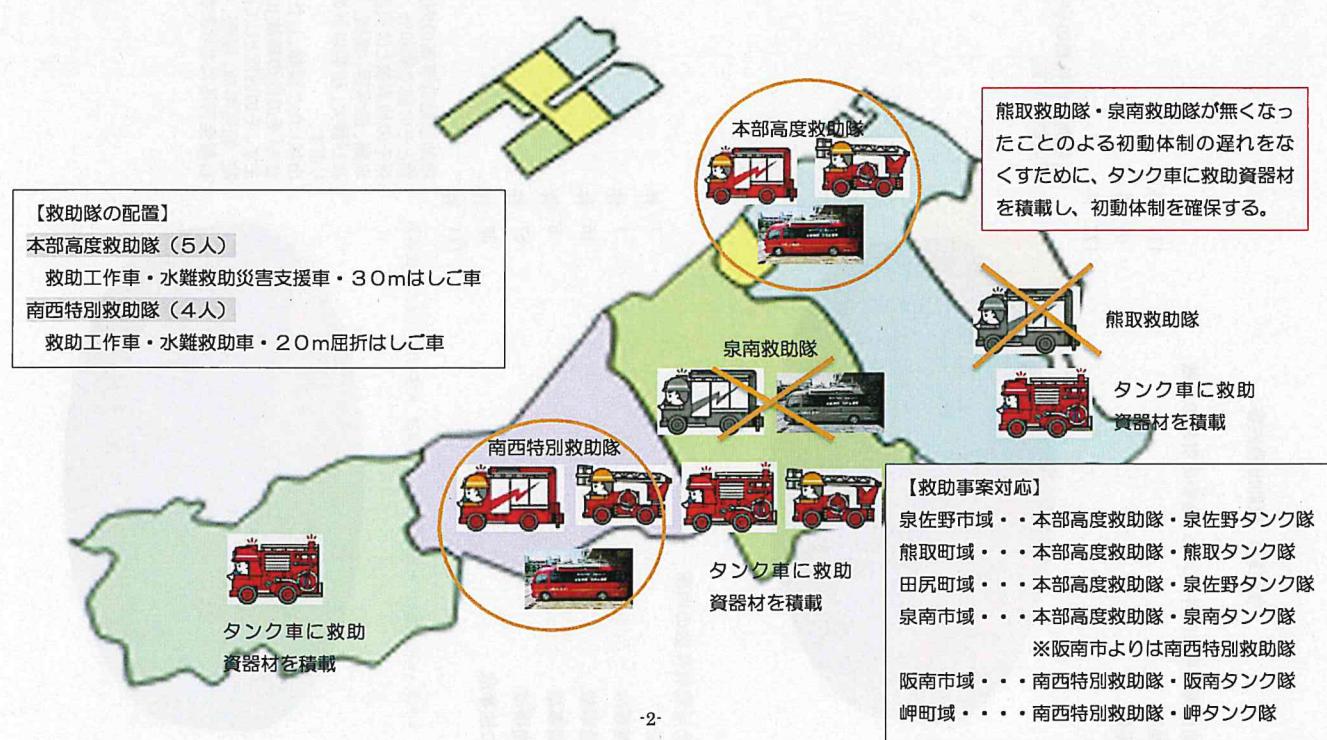


広域化から9年を迎え、今までに経験したことのない自然災害や新型コロナウィルス感染症に対応し、今後の課題が見えてきたことから、組合全体の消防力適正配置計画を策定して、課題を解決し、さらに強靭化した泉州南消防組合を目指します。

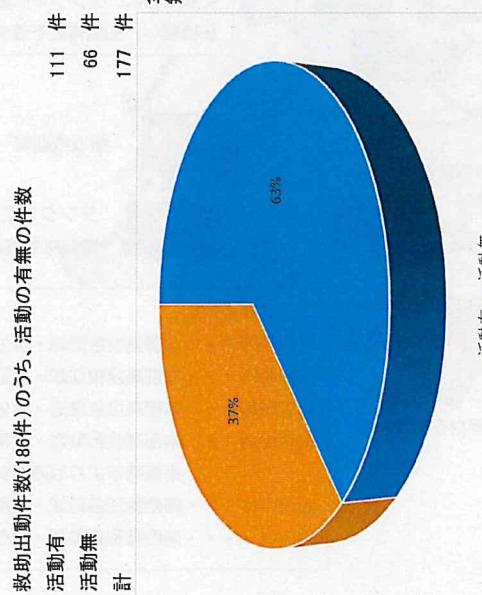
課題1 救助体制の再構築



【変更後】



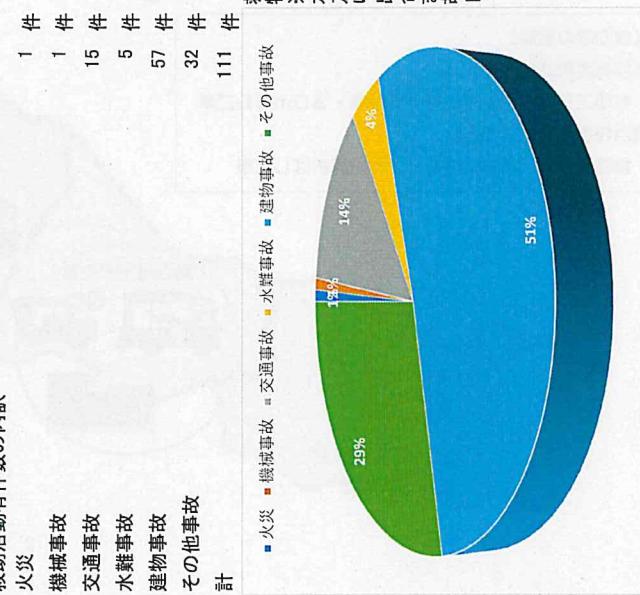
令和2年 救助出動内容



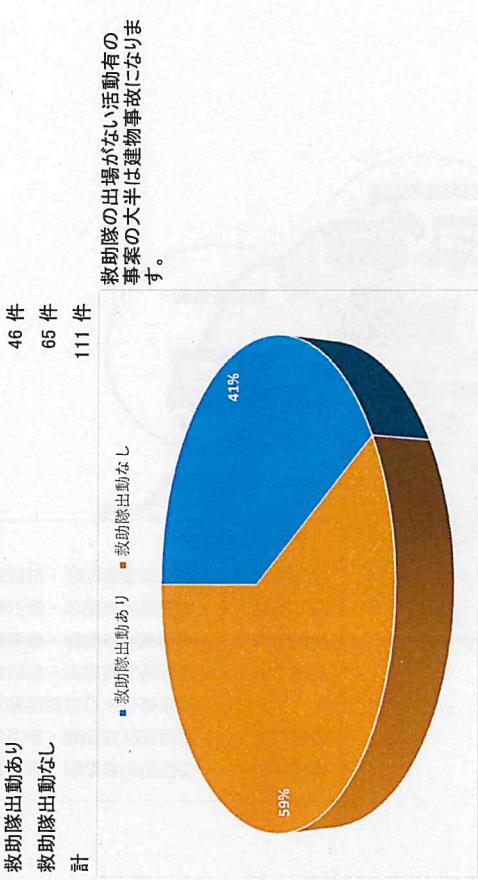
救助活動有件数の内訳

火災	機械事故	交通事故	水難事故	建物事故	その他事故	計
1 件	1 件	15 件	5 件	57 件	32 件	111 件

救助活動有事案の内訳



救助活動有事案のうち、救助隊出動有無件数



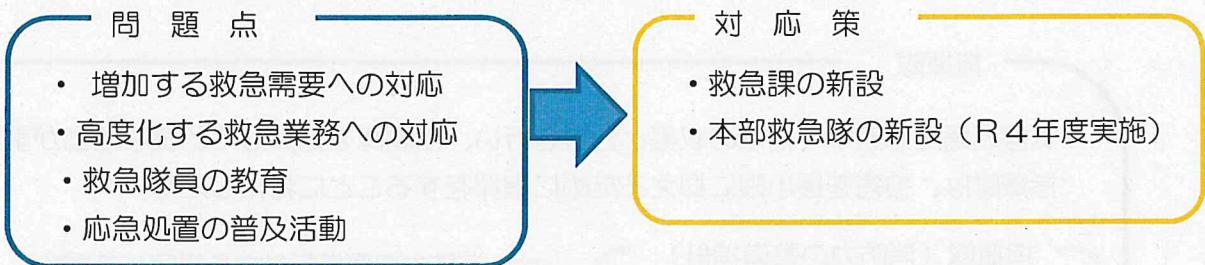
救助活動有事案かつ救助隊出動有事案の内訳

火災	機械事故	交通事故	水難事故	建物事故	その他事故	計
1 件	1 件	14 件	5 件	5 件	20 件	46 件

※車両火災(阪神高速)
エレベーター閉じ込め

救助隊の出場がない活動有りの事案の大半は建物事故になります。
1 件 ※車両火災(阪神高速)
1 件 エレベーター閉じ込め
14 件
5 件
5 件
20 件
46 件
建物事故では救助隊が出現した理由としては、建物崩落、高所作業、南西直近事案等があります。

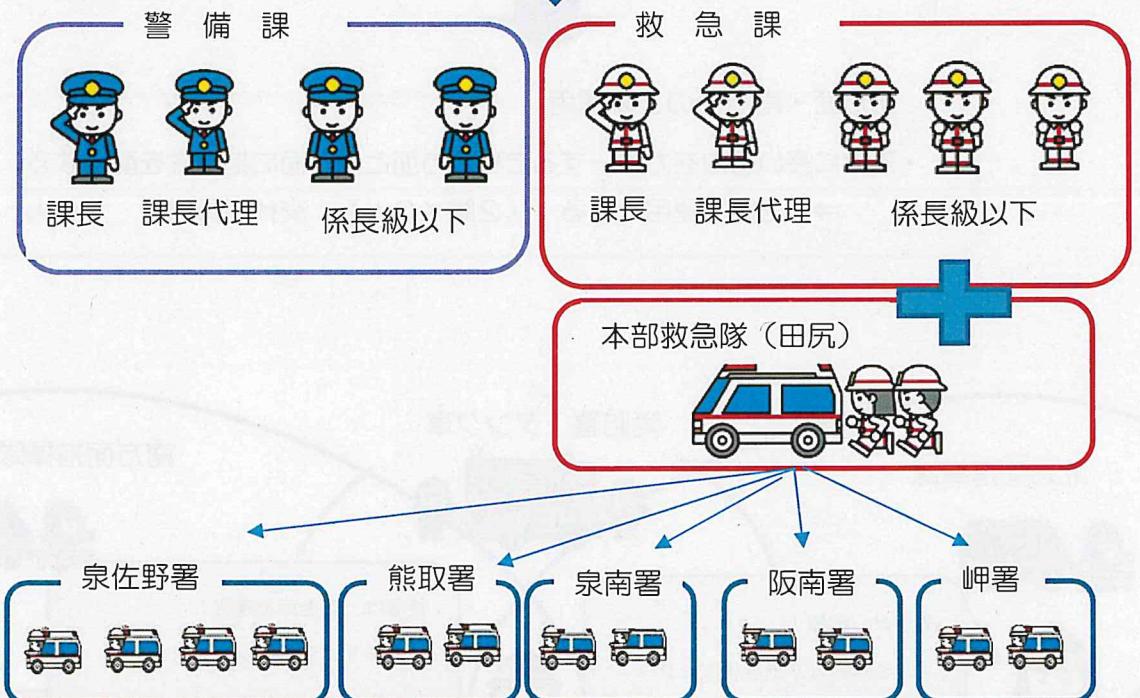
課題2 救急体制の充実・強化



【現状】



【変更後】



住民ニーズの多様化、災害や疾病構造の変化等により救急業務は高度化しており、医療機関等の連携や他機関との調整強化のため、本部救急課を新設し、また、消防組合13隊の救急隊を、本部救急課（日勤）及び本部救急隊（隔日）が「指導的立場の隊」として、教育や指導を通じて人材育成を目的に運用します。

課題3 指揮活動の充実・強化

指揮隊

災害現場では素早く情報の収集と分析を行い、出動隊を指揮して的確な活動が重要
指揮隊は、被害を最小限に抑えるために指揮をすることに特化した隊

指揮隊（消防力の整備指針）

- ・指揮車は、消防署の数と同数を基準
- ・指揮車1台につき3人以上とする。

消防力の整備指針から算定した場合

泉佐野署・泉南署・阪南署・熊取署・岬署
(5隊×3人) 交代要員総数 48人

※ 消防力の整備指針とは、総務省消防庁より、消防の責任を十分に果たすための基準を示し、これらを目標として市町村が整備する指針のこと。



北方面・南方面の2隊運用

- ・南北に長い管内をカバーするため北方面と南方面に指揮隊を配属する。
⇒ 2隊で運用できる (2隊×2人) 交代要員総数 16人

北方面指揮隊



先着は、指揮！

- ・建物構造は？延焼状況は？
- ・逃げ遅れ、負傷者は？

消防署 タンク車



南方面指揮隊



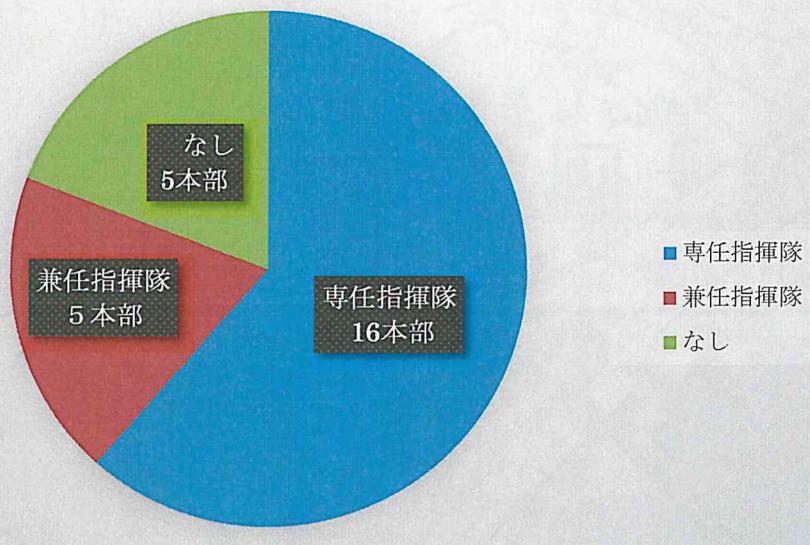
後着は、安全面を確認！

- ・周りの危険な所の確認
- ・筒先は配備状況
- ・関係機関と連携

過去5年間の火災発生状況
(平成28年～令和2年)



大阪府下 26 消防本部 指揮隊配備状況



課題4 安全管理の充実・強化

問題点

- 大量退職により、知識や経験を積んだベテラン職員が減少し若年層の割合が増加
- 火災件数が減少傾向にあり、現場経験を積む事が難しい
- 建物構造の複雑化、新建材の普及等により、火災現場において急激な延焼拡大により退路を失い殉職するなど、重大な死亡事故に至る事案があとを絶たない

対応策1

実火災体験型訓練の取り入れ



対応策2

警防活動検討会の開催



対応策3

2隊の指揮隊のうち、1隊に「安全管理」の任務を与え、安全管理を充実する。

先着指揮隊



先に着くから、指揮するよ



隊員が安全に活動出来るよう
安全管理は任せて！！

後着指揮隊



過去の消防職員殉職事例

平成14年中	東京、旭川、石岡、逢坂、別府	計5人
平成15年中	藤代、神戸、桑名、西宮	計8人
平成16年中	八尾、郡山、寄居	計3人
平成17年中	八女、豊中、筑後、松本	計4人
平成18年中	名古屋、いわき	計2人
平成19年中	湖北、東京、埼玉、美唄	計5人
平成20年中	新潟、彦根	計2人
平成21年中	横須賀、由布、神戸、兵庫県防災航空隊（羽鳥）	計4人
平成22年中	埼玉県防災航空隊、秩父、日立	計4人
平成23年中	東日本大震災（岩手県内7人、宮城県内19人、うち行方不明4人） 加古川	計27人
平成24年中	神戸、一関、粕屋南部、姫路	計4人
平成25年中	阿賀町	計1人
平成26年中	広島、新川地域	計2人
平成27年中	泉州南	計1人
平成29年中	長野県防災航空隊、君津、宮古、城陽	計10人
平成30年中	群馬県防災航空隊	計7人
平成31年中	能代山本広域、東京	計3人
令和2年中	静岡	計3人

職員を殉職させてからでは、遅い！！

安全管理の専門隊の設置が急務

2隊の指揮隊のうち、1隊に安全管理の任務を付加し、負傷事故
「ゼロ」を目指します。

課題5 消防体制の充実・強化

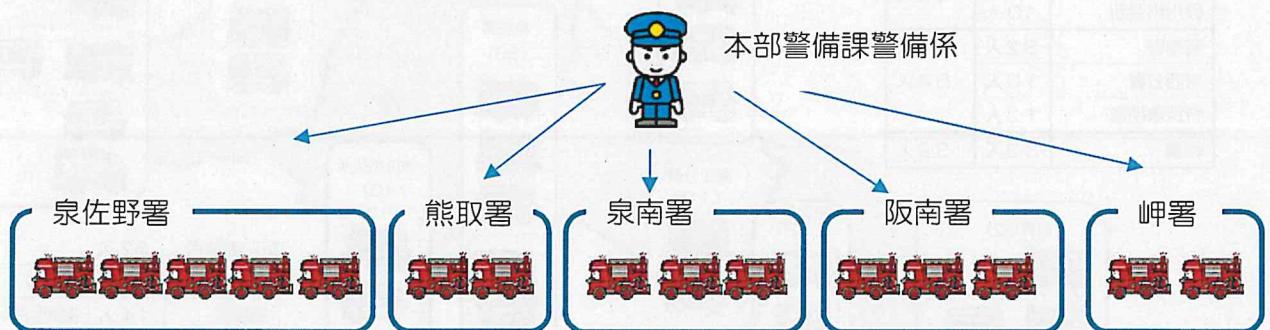
問題点

- ・建物の高層、複雑化への対応
- ・消防隊員への教育

対応策

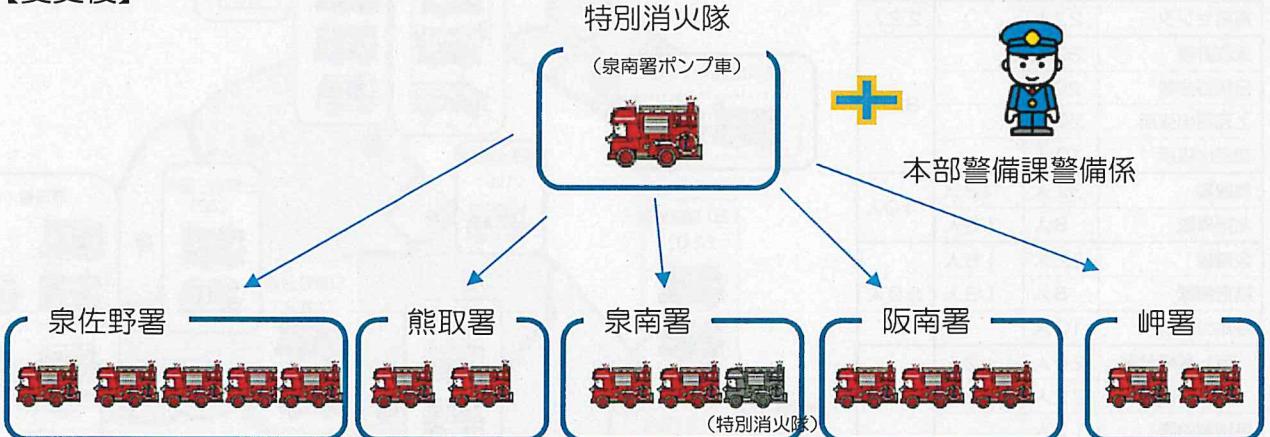
- ・特別消火隊の新設

【現状】



消防組合15隊の消防隊の消防戦術の研究・指導や装備の整備計画や取扱いの指導を本部警備課（日勤者）で行っているが、実動隊（災害現場で活動しない）でないため、実災害に則した指導等が難しい。

【変更後】



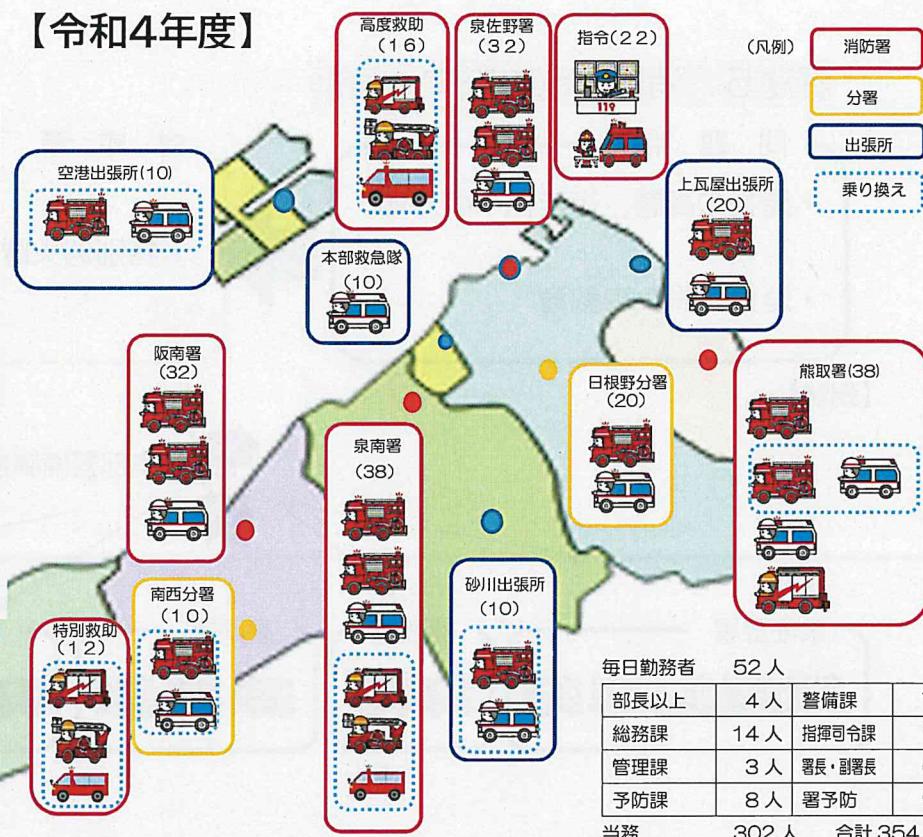
15隊の消防隊の「指導的立場の隊」と位置づけ、教育や指導を通じて人材育成の強化を目的に、大量退職時にも消火技術を維持できる体制を構築する。

消防力の適正配置

【令和4年度】

交代勤務者 302人

高度救助隊	16人	16人
本部救急（田尻）	10人	10人
指令センター	22人	22人
泉佐野署	32人	
日根野分署	20人	
上瓦屋出張所	20人	
空港出張所	10人	
熊取署	38人	38人
泉南署	38人	
砂川出張所	10人	48人
阪南署	32人	
南西分署	10人	
特別救助隊	12人	
岬署	32人	32人



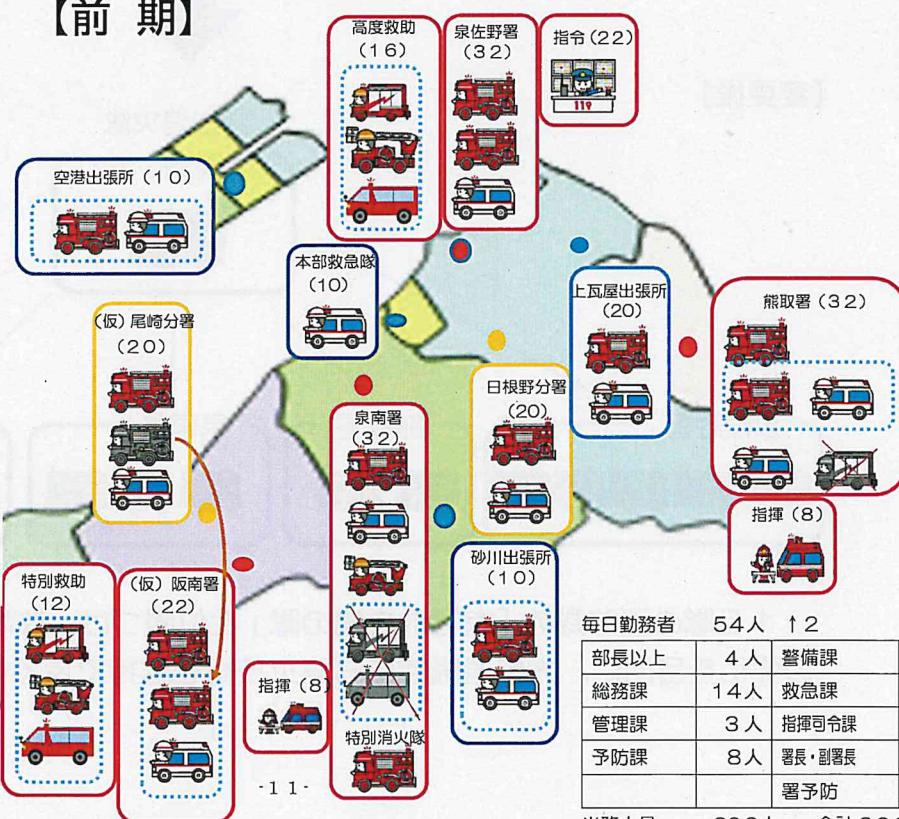
交代勤務者

306人

↑4人

【前 期】

高度救助隊	16人	16人
本部救急（田尻）	10人	10人
指令センター	22人	22人
泉佐野署	32人	
日根野分署	20人	
上瓦屋出張所	20人	
空港出張所	10人	
熊取署	32人	↓6人
北指揮隊	8人	↑8人
泉南署	32人	↓6人
南指揮隊	8人	↑8人
砂川出張所	10人	
(仮) 尾崎分署	20人	↓12人
(仮) 阪南署	22人	↑12人
特別救助隊	12人	
岬署	32人	32人



交代勤務者	306人	14人
高度救助隊	16人	16人
本部救急（田尻）	10人	10人
指令センター	22人	22人
泉佐野署	32人	

【後期】



令和6年度から令和10年度

- ・第1次将来構想計画の見直しと歩調を合わせ、人口推移・消防需要に応じ、減隊等、計画を見直す
- ・個別施設計画と整合性を図り、署所の建て替えを含めた指令システムの更新等を検討する期間とする。

毎日勤務者	54人	12
部長以上	4人	警備課
総務課	14人	救急課
管理課	3人	指揮司令課
予防課	8人	署長・副署長
		署予防

当務人員 306人 合計360人



置配兩車

車両適正配置による効果

年度		減額	増額
令和4年度	【購入】泡原液搬送車	15,000千円	
	【廃車】泡原液搬送車	45,000千円	
令和5年度	【購入】人員搬送車	20,000千円	
	指揮車	8,000千円	
	【改造】レスキュータンク車改造費	1,500千円	
	【廃車】大型救急車・大型搬送車	252,870千円	
	阪南タンク車・上瓦屋資搬車		
	泉南救助工作車・水難救助車		
	泉南事務連絡車・泉南広報車		
	合計	297,870千円	44,500千円

1. 車両削減による効果

① 阪南タンク車の廃車	50,000千円
② 上瓦屋資搬車の廃車	3,500千円
③ 泉南救助工作車の廃車	140,000千円
④ 泉南水難救助車の廃車	8,370千円
⑤ 泉南事務連絡車の廃車	3,000千円
⑥ 泉南広報車の廃車	3,000千円
合 計	207,870千円 (削減)

2. 大型搬送車と大型救急車の仕様変更

① 大型救急車の廃車	30,000千円
② 大型搬送車の廃車	15,000千円
③ 人員搬送車の購入	20,000千円
合 計	25,000千円 (削減)

3. 泡原液搬送車の仕様変更

① 泡原液搬送車の廃車	45,000千円
② 泡搬送車の購入	15,000千円
合 計	30,000千円 (削減)

4. 指揮車の購入 8,000千円 (増額)

5. レスキュー車改造 1,500千円 (増額)

効 果 額 253,370千円 + 削減車両の維持費

車両の仕様変更

1 泡原液搬送車の仕様変更



化学車へ泡消火薬剤を送液する専用車両



トラックベース車両に変更

【費用効果】

泡原液搬送車 45,000千円

トラックベース 15,000千円

▲30,000千円

2 大型搬送車、大型救急車の仕様変更



大型救急車



大型搬送車

人員を搬送でき、かつ、緊急で
軽症者が搬送できる車両とする

【費用効果】

大型救急車 30,000千円

大型搬送車 15,000千円

人員搬送車 20,000千円

▲25,000千円

署所の配置車両

消防署



タンク車



スモールタンク車



救急車



資機材搬送



事務連絡車



広報車

分署・出張所



スモールタンク車



救急車

救助隊



救助工作車



はしご車



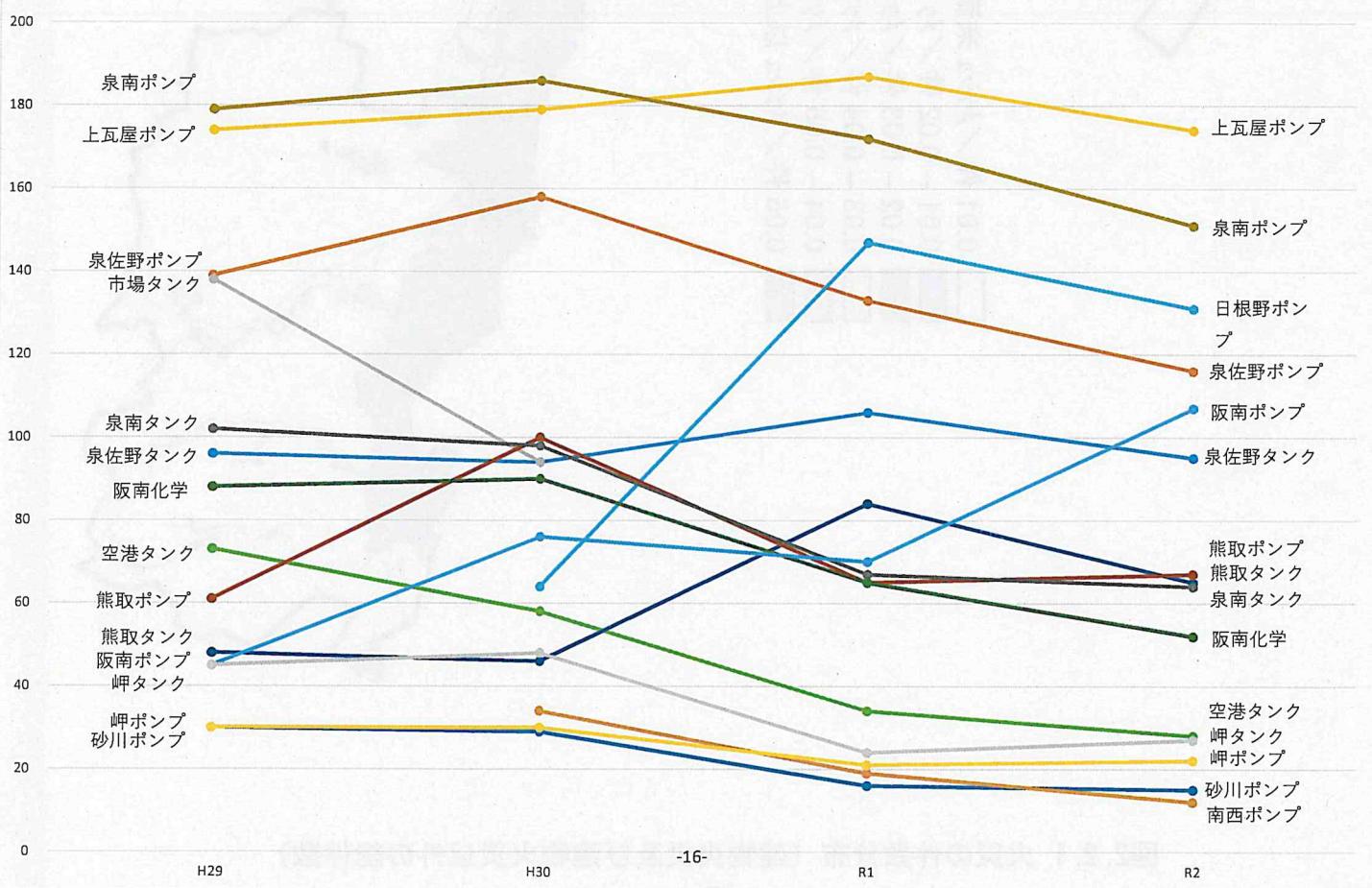
水難救助車

その他、地域の実情に合わせ、車両を配置する。

火災・事故等出動状況

	H29						H30						R1						R2					
	火災	55件	事故等	943件			火災	52件	事故等	1146件			火災	54件	事故等	1003件			火災	46件	事故等	831件		
火災件数	熊取	泉佐野	田尻	泉南	阪南	岬	熊取	泉佐野	田尻	泉南	阪南	岬	熊取	泉佐野	田尻	泉南	阪南	岬	熊取	泉佐野	田尻	泉南	阪南	岬
事故等件数	3件	25件	3件	14件	8件	2件	3件	25件	2件	9件	12件	1件	3件	18件	2件	17件	10件	4件	6件	18件	3件	6件	8件	5件
	合計			合計			合計			合計			合計			合計			合計					
泉佐野タンク車	14件	82件		96件		19件		75件		94件		22件		84件		106件		17件		78件		95件		
泉佐野ポンプ車	11件	128件		139件		18件		140件		158件		13件		120件		133件		17件		99件		116件		
市場タンク車	25件	113件		138件		9件		85件		94件		-		-		-		-		-		-		
上瓦屋ポンプ車	19件	155件		174件		18件		161件		179件		10件		177件		187件		20件		154件		174件		
日根野ポンプ車	-	-		-		14件		50件		64件		12件		135件		147件		23件		108件		131件		
空港タンク車	1件	72件		73件		0件		58件		58件		0件		34件		34件		1件		27件		28件		
熊取タンク車	8件	40件		48件		7件		39件		46件		3件		81件		84件		9件		56件		65件		
熊取ポンプ車	9件	52件		61件		17件		83件		100件		10件		55件		65件		15件		52件		67件		
泉南タンク車	17件	85件		102件		19件		79件		98件		20件		47件		67件		12件		52件		64件		
泉南ポンプ車	20件	159件		179件		17件		169件		186件		16件		156件		172件		13件		138件		151件		
砂川ポンプ車	7件	23件		30件		6件		23件		29件		6件		10件		16件		4件		11件		15件		
阪南化学車	15件	73件		88件		12件		78件		90件		14件		51件		65件		10件		42件		52件		
阪南ポンプ車	6件	39件		45件		14件		62件		76件		7件		63件		70件		12件		95件		107件		
南西ポンプ車	-	-		-		10件		24件		34件		6件		13件		19件		4件		8件		12件		
岬タンク車	2件	43件		45件		3件		45件		48件		4件		20件		24件		5件		22件		27件		
岬ポンプ車	3件	27件		30件		3件		27件		30件		4件		17件		21件		4件		18件		22件		

消火隊別出動状況



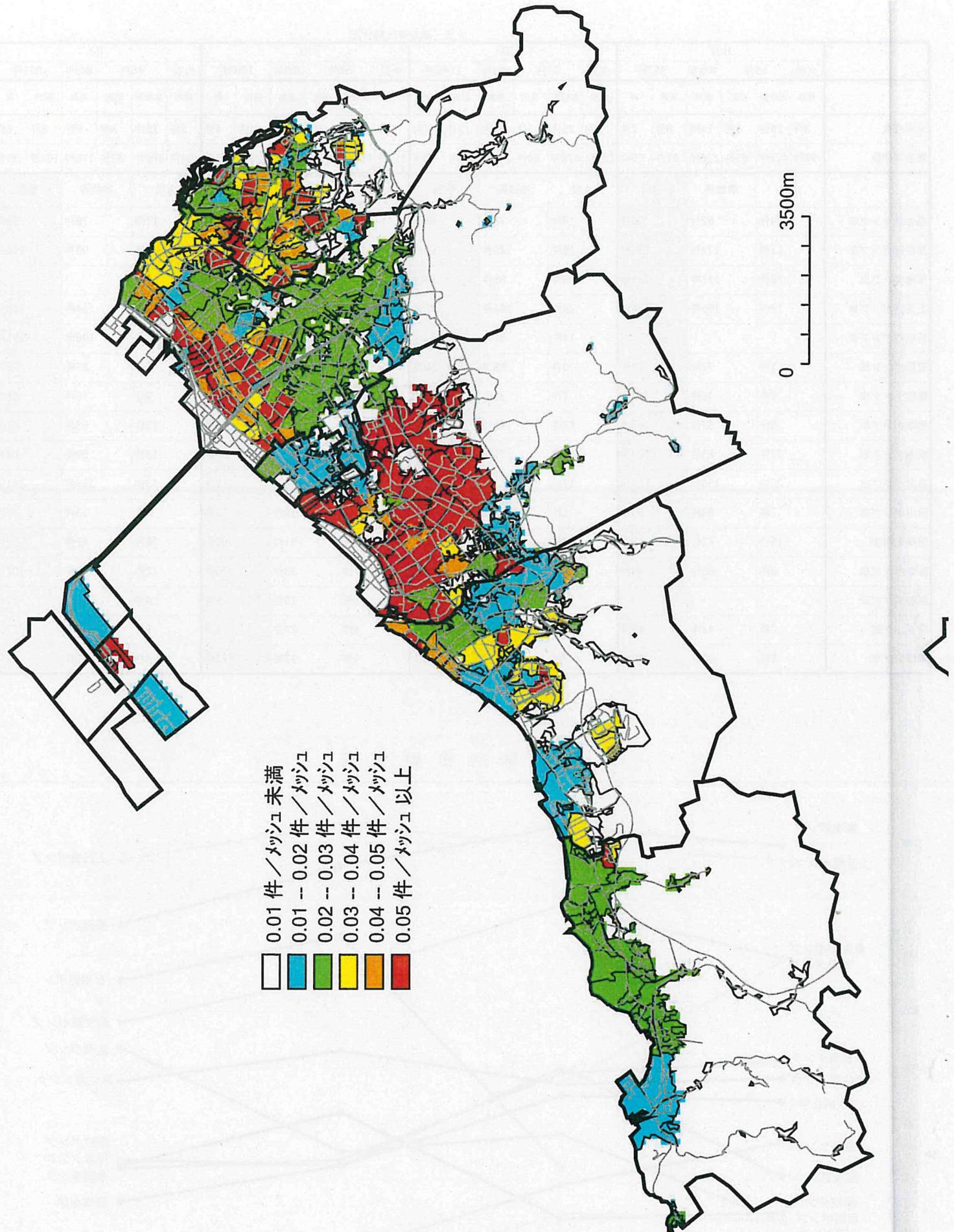
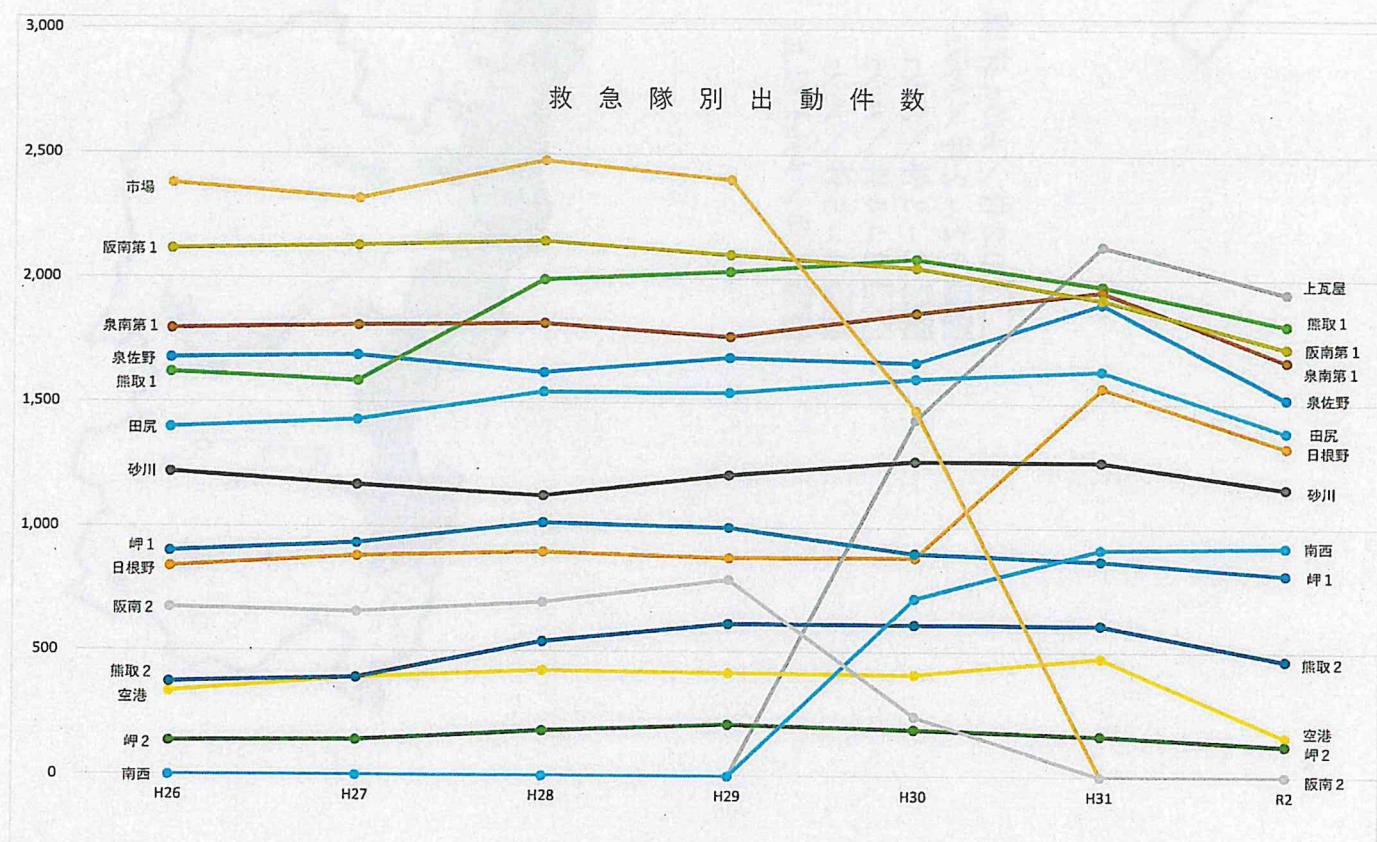


図2.2.1 火災の件数分布（建物火災及び建物火災以外の総件数）

救急出動状況

	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R2年	
	15,505件		15,563件		16,488件		16,633件		17,373件		17,372件		15,046件	
泉佐野救急隊	1678件	11%	1690件	11%	1622件	10%	1683件	10%	1664件	10%	1902件	11%	1520件	10%
日根野救急隊	838件	5%	881件	6%	889件	5%	876件	5%	878件	5%	1563件	9%	1325件	9%
上瓦屋救急隊	-	-	-	-	-	-	-	-	1434件	8%	2134件	12%	1945件	13%
市場救急隊	2379件	15%	2320件	15%	2474件	15%	2400件	14%	1472件	8%	-	-	-	-
空港救急隊	337件	2%	393件	3%	423件	3%	416件	3%	409件	2%	476件	3%	160件	1%
田尻救急隊	1398件	9%	1430件	9%	1544件	9%	1542件	9%	1598件	9%	1631件	9%	1387件	9%
熊取第1救急隊	1620件	10%	1586件	10%	1995件	12%	2030件	12%	2082件	12%	1974件	11%	1816件	12%
熊取第2救急隊	375件	2%	393件	3%	540件	3%	613件	4%	610件	4%	608件	3%	467件	3%
泉南第1救急隊	1795件	12%	1810件	12%	1819件	11%	1767件	11%	1863件	11%	1951件	11%	1671件	11%
泉南砂川救急隊	1220件	8%	1170件	8%	1127件	7%	1211件	7%	1267件	7%	1265件	7%	1159件	8%
阪南第1救急隊	2115件	14%	2131件	14%	2150件	13%	2097件	13%	2046件	12%	1919件	11%	1724件	11%
阪南第2救急隊	674件	4%	657件	4%	697件	4%	789件	5%	241件	1%	-	-	-	-
南西救急隊	-	-	-	-	-	-	-	-	714件	4%	913件	5%	923件	6%
岬第1救急隊	900件	6%	933件	6%	1018件	6%	1000件	6%	896件	5%	867件	5%	812件	5%
岬第2救急隊	138件	1%	143件	1%	182件	1%	209件	1%	189件	1%	165件	1%	126件	1%
その他救急隊	38件	0%	26件	0%	8件	0%	0件	0%	10件	0%	4件	0%	11件	0%



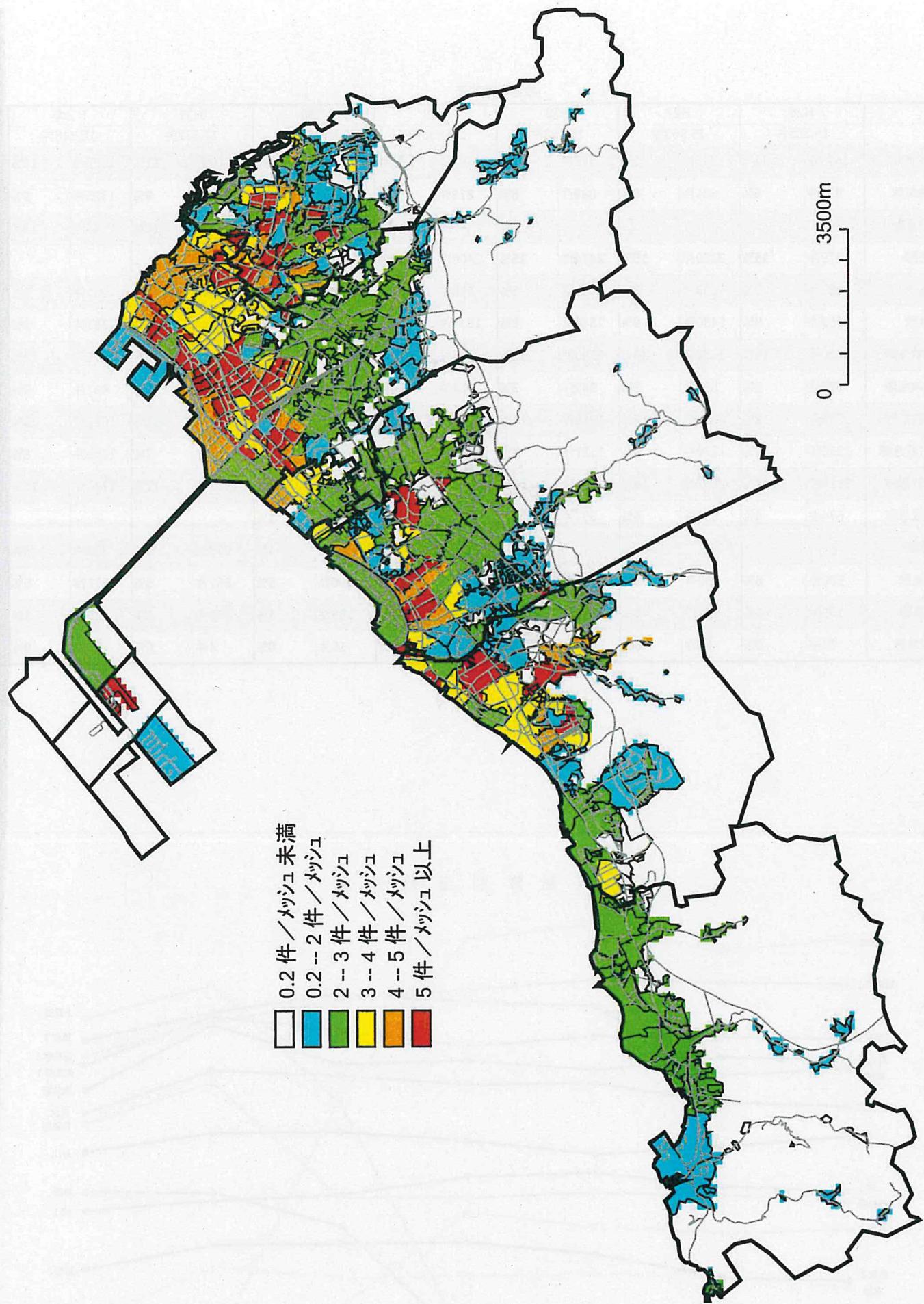


図2.2.2 救急出動の件数分布

常備消防力適正配置計画策定に伴う署所配置将来構想

前期(令和5年4月1日)

本部		本部日勤						主力車両及び人員						1 当務		隔日勤務員数(54人)		
部長級	給務課	管理課	予防課	警備課	司令課	救助課	救急	ポンプ	タンク	副署長	予防係	署長	副署者	司令	指揮隊	隊	人	人
東佐野署	田房出張所	4	14	3	8	4	1	5						5			1	5
日根野分署														3			1	3
空港出張所														3			3	10
上岡屋出張所														3			2	6
熊取署	(本部付け)													3			3	32
泉南署	(本部付け)													3			2	20
妙川出張所														3			1	10
(仮) 岩南署(南西)														3			3	32
(仮) 尾崎分署(阪南)														3			2	8
岬署	360人	39人	15人											3			3	32
														28隊	94人	286人	306人	

卷之六

・第1次将来構想計画の見直しと歩調を合わせ、人口推移・消防需要に応じ、減隊等、計画見直す。

する。

